

# 第 2 回会議にかか る ご意見等について



## 1. 第2回推進会議における意見等への対応について

No.	ご意見等	回答
1	日本版CCRCについて、県内では茅ヶ崎市で実験を始めると聞いている。詳しい内容を把握できていたら教えてほしい。	茅ヶ崎市にヒアリングを行ったところ、現在、シニア層の市内における移り住みについて、導入の是非も含め、コンセプトを検討中とのことでした。

## 2. 会議後に書面で提出された意見・提案について

No.	ご意見等
1	<p><b>【特色ある施策展開】</b> 現状分析にもとづく今後の施策の方向性は事務局提案のとおりで適切と思う。一方、今後打ち出そうと考えている各施策は、多くの自治体でも同じように考えているのではないかと思う。さらに、総花的な施策では、予算も分散してしまい、訴求力が弱くなる恐れがある。 したがって、横須賀市が今後成果を出していくためには、他の自治体と差別化できるような施策に特に力を入れて、アピールしていく必要があると思う。 このためには、他の自治体の成功事例やできれば失敗事例を収集分析し、横須賀市として重点的に取り組むべきことは何か、発想を柔軟にして検討する必要があると思う。</p>
2	<p><b>【施策の推進体制】</b> 施策の実行体制も重要だと思う。例えば、第2回会議で、学童保育を学校で行っている例が紹介されたが、これを横須賀市でこれからやろうとすると、既存の関係事業者との調整等、大変ではないかと思う。 熱意をもった若手職員に思い切って権限を与えて任せてみるとか、体制についても、従来の役所の考え方を超えるような柔軟な発想が必要ではないかと思う。</p>
3	<p><b>【KPI】</b> 単に内向きな指標とせず、横須賀市の住みやすさ・暮らしやすさの度合いが、一般市民からも分かるような、イメージをつかみやすい指標としたらどうか。 例えば、指標として衣・食・住・職・教育環境…をジャンルとし、それぞれに評価項目を設定する。項目ごとに自己評価し、改善度も見えるようにする。 地域別(中央地区・西海岸・久里浜地区・追浜地区など)でも評価すれば、市外の方が市内に住む場所を選ぶとき、その地域がどのような場所か分かりやすく、住む場所への多様な価値観も吸収できる。横須賀市が、市を挙げて改善に前向きに取り組んでいることもアピールできる。</p>
4	<p><b>【人口減少への対応策】</b> 対応策としては、下記①-③しかないと思う。 ①とにかく産業、企業を誘致する。(特に製造業や研究所) ②情報・海洋等研究開発機関の若手用・若手家庭向けの寮・宿舎を行政で市内に準備する →とにかく横須賀に住んでもらってその利便性を知ってもらう。 ③横須賀北部における住宅供給促進策の実施(開発規制、斜面地規制等の緩和?) →とにかく、住宅着工数の低下が響いている。  これらをサポートするものとして ○横須賀のイメージアップ ・観光によるPR →軍港等独特観光、ソフトフランスパン等文化発信 ・生活しやすさのPR →海・緑等、自然のPR、買い物のしやすさ、横浜・鎌倉・品川への京急等の利便性の良さのPR ・意外と安い地価、市外からの転入者へのインタビュー等のPR</p>

No.	ご意見等
5	<p>【コンパクトシティ】 コンパクトな都市を目指すことに対する議論も必要ではないだろうか。</p>
6	<p>【地域別施策】 特に今回の会議で感じたこととして、市内をいくつかの地域に分けて人口定住政策をまとめてはどうか。</p> <p>[例]</p> <p>①西海岸 …リタイア世代・生活ゆとり世代の定住積極的誘致 ・西海岸は気候・風景・自然・食べ物が良いことから、通勤・広域での移動が少なく経済的に豊かなリタイア・生活ゆとり世代の積極的誘致がよいのでは。 ・名称も「横須賀」とは言わず→「葉山・逗子の近く(バスで一本)の湘南」を強調？</p> <p>②追浜から浦賀、久里浜にかけての東京湾側 …東京・横浜近郊通勤世代のための定住誘致 ・京急など交通の利便性、商業施設等の完備等をPRし、東京・横浜通勤世代の積極的誘致を図る。 ・再開発による大型マンション建設、谷戸等の空き家改修を促進し、特徴ある住宅供給を進める。</p>
7	<p>【地域別施策】 横須賀市を整備するには、市域のゾーニングを明確にした上で、エリアごとに特徴ある施策を展開することが効果的と考える。</p> <p>[例]</p> <p>①追浜エリア …ベッドタウンとして拡充整備</p> <p>②中央エリア …文字通り商業中心の街区を形成、魅力ある店舗の誘致、大通りの歩行者天国化</p> <p>③久里浜エリア …学術研究機関の集積を一層進め、高度なスマートシティ化(実験住宅の街) →目指せゼロエミッション、ゼロエネルギー …久里浜は京急、JRの始発駅。都心への通勤に多少は時間がかかるが、座って行ける環境を充実化するような施策を検討し、人を呼び込む。</p> <p>④西側エリア …自然環境、地場の野菜、魚介などの食、セカンドライフに適した住</p>
8	<p>【地域別施策】 定住促進について、市域を分ける必要があるのではないかと感じる。</p> <p>[例]</p> <p>①ベッドタウンA(東京通勤圏) …追浜 ②ベッドタウンB(横浜・川崎通勤圏) …横須賀中央辺り ③職住近接エリア ④就農エリア …西側 ⑤ICT創業エリア …YRP周辺 など</p> <p>・ベッドタウンについて 駅から徒歩圏でないと勝負ができないと感じる。マンションであれば10分以内、戸建てであれば15分以内だろうか。バス利用前提は難しいと思う。</p> <p>・就農について 都内の就農希望者(若者)を呼び込むには、横須賀は優位性を備えていると感じる。東北、北関東などに比べて東京が近いからである。市場に近いというメリットもあるし、就農した若者が休日に都内に遊びに出かけられるというメリットもある。</p>

No.	ご意見等
9	<p><b>【シルバー層の移住促進】</b>            温暖な気候、豊かな一次産品など、住みやすさ・暮らしやすさをアピールすることで、都内等の60歳代をターゲットにしたシルバー層の移住を促進する政策を打ち出してはどうか。            育児支援、学童保育、英語教育等、本来移住を進めたい若年層のライフスタイルに必要なサービス業の担い手として、60代から当市で働いてもらい、日本版CCRCの先駆けとして、市を挙げて積極的にチャレンジする姿勢を打ち出す。            移住してくる人は保有資産ごと移転してくるわけであり、消費を含めた税収増の効果もある。            市内には、医療・介護の事業者が多いだけでなく、神奈川歯科大や県立保健福祉大といった大学も有しており、産官学連携で高齢者をバックアップしていくような施策を実施していくことで、移住への安心感も打ち出せる。            また、医療・介護の関連産業（介護ロボットメーカーなど）誘致などの広がりも期待できる。</p>
10	<p><b>【定住促進】</b>            横須賀市は、学童保育などの子育て支援は残念ながら他都市から遅れているが、海や山等の自然環境は大変恵まれていると思う。気候も、夏は涼しく、冬は暖かいということも、毎日東京に通勤していると実感する。しかし、それらの良い面は、実際に横須賀に来てみないとわからない。東京や横浜の小中学校に働きかけて、遠足等でぜひ横須賀に来てもらえれば、横須賀の良さを体感できると思う。</p>
11	<p><b>【定住促進】</b>            近隣横浜市（金沢区あたり）の不動産屋にお願いして、横浜市で住宅購入を考えているお客さんに、同じ値段でも横須賀市なら庭付きのもっと広い家を買えるということをアピールしてもらい、実際に横須賀市の物件を見学、紹介してもらおうのが効果的だと思う。</p>
12	<p><b>【定住促進】</b>            女性の視点での施策立案を充実すべき ←住居選択は女性主導？            ・教育（保育・学童クラブ等） →企業内保育            ・安全 →米軍の存在はイメージとしてマイナス面もある</p>
13	<p><b>【定住促進】</b>            ・定住を推進するために、とにかく東京都市圏の人にPRをする。            ・例えば、市役所内に定住促進営業課をつくる。</p>
14	<p><b>【定住促進】</b>            30代、40代の定住者対策は、住宅・教育・働く場所の創生と提供であり、定住には住宅対策・教育対策が必要で、収入は他都市での雇用で可能となる。</p> <p>・住宅政策に関して横須賀市は、「谷戸空き家バンク制度」を創設するなどにより一部で図られているが、当市の大規模住宅開発は、湘南鷹取団地を代表するように、山の上位部分を開発したために、駅から団地まで坂道が多く、通勤・通学は不便であり、コミュニティバス等の交通手段の導入が必要である。            空き家の増加、つまり人口の減少は、路線バスの廃止や商業施設の減少につながり、ひいては利便性が低下する。            ・当市の交通状況は、県内平均と比較して、自動車の利用が高く、鉄道の利用が低いという傾向にある。これは通勤・通学に不便という印象を与え、都市イメージの低下という悪影響をもたらす。            ・定住者対策の方向性としては、教育、特に学童保育の充実、生活に便利な街、買い物・交通・教育・レジャーなど都市イメージの向上・創生ではないかと考える。</p>

No.	ご意見等
15	<p>【子育て】 会議でも、学童保育の支援が劣るとの指摘があったが、横須賀魅力全集に記載されている支援策が全国的にみてどの程度のレベルにあるのか、即ち、何が、どれだけ手厚いのか、あるいは劣っているのかがわかるような比較をした上で、重点的な投資をしてはどうか。年代、性別、生活態様など、ターゲットごとにきめ細やかな施策をとる視点も大切と感じる。</p>
16	<p>【子育て】 会議中発言があった「学童保育の整備」は、若い人の定住を促進する上で、必須である。早急に整備願いたい。</p>
17	<p>【教育】 ・色々な面で横須賀は横浜から遅れているので、まずはそれを横浜並みにすることを目標に掲げてはどうかと思う。その上で、横須賀独自の目標も立てるべきかと思う。 例えば、公立学校の学力向上を目指す。特に、市立小中学校の学力向上 →目標:全国学力テスト、5点アップ、県内平均を上回る ・今回の資料4p15の「私立小学校が少ない」という資料の作成は非常に疑問が残る。本来ならば、私立学校をあてにするのではなく、「私立学校がなくても大丈夫なくらい、教育が充実している」横須賀市を目指すべきかと思う。</p>
18	<p>【教育】 横須賀市内に、優秀な私立学校(小学校～大学)の一部を誘致することは非常に効果的だと思う。「引っ越してまでも行きたい学校」というのがポイントである。</p>
19	<p>【教育】 横須賀市への定住意向に関するアンケートでは、「外国人と交流する機会がある」が顕著に高い結果となっている。 市内の各学校にネイティブの講師がいることだけにとどまらず、「高等教育を終える頃には日常英会話程度はできるようにする」ことを実現するような取り組みを行い、成果が出てくれば、大きなアドバンテージになるのではないか。</p>
20	<p>【地域経済】 ・ベンチャー支援に関する施策の充実が必要ではないか。 ・起業 →第1次・第2次産業を含む ・域内 →市内だけでなく、近隣市町村との連携施策を考えてみては？</p>
21	<p>【創業支援】 横須賀市には、横浜市の(公財)横浜起業経営支援財団(IDEA)のような存在はあるか。IDEAはワンストップでの創業支援サービスを展開している。[事務局記載:(公財)横須賀市産業振興財団では相談事業の中で創業者相談を行っている。] 横須賀市には電力中央研究所などICT関連の企業や組織があるので、創業一般というよりも、ICTに特化した創業支援というやり方もあるかもしれない。</p>
22	<p>【企業誘致・イメージ戦略】 横須賀を居住地として選択してもらうためには、実際に横須賀に足を運んでもらい、見てもらうことが肝要と思う。その観点(人を呼び込む)から施策を考えてはどうか。</p> <p>[例] ・企業誘致に当たっては、より集客力が見込まれるアウトレットモールの出店など。モール内に横須賀市のアンテナショップを併設。すかなごっそやソレイユの丘との連携などができればより効果的…三浦縦貫道2期工事の実現による道路利便性の向上を視野に。 ・横須賀市の観光大使(求心力のある地元の著名人を起用)によるメディア露出</p>